

近江の地酒もてなし普及促進協議会 結果概要

開催日時、場所

令和5年2月6日(月)10時00分から11時30分
コラボしが 21 3 階 大会議室

参加委員

別紙出欠表の通り

次第

<開会>

喜多会長挨拶

<議題>

議題(1) 各団体・委員の取組報告について(補足説明のみ記載) 資料 1-1

滋賀県酒造組合

滋賀地酒1万人乾杯プロジェクト

- ・リアル会場とオンラインのハイブリッド開催。
- ・カクテルコンペティションや料理にも注力し、多様な楽しみ方を演出。

コラボ純米酒

- ・32 蔵元の地酒をブレンドし、約 13,000 本販売。

滋賀県酒販組合連合会

全国植樹祭

- ・サテライト会場として忍の里プラザ(甲南情報交流センター)にて試飲等を実施。

春の東海道酒蔵めぐり{令和5年3月 25 日(土)・令和5年3月 26 日(日)}

- ・甲賀・湖南市観光協会が主体 竹内酒造・北島酒造・美富久酒造・田中酒造をバスで巡る巡回ツアー。
- ・今年については甲賀・湖南地域にある上記4蔵の他、7蔵の地酒についてもリアル忍者館で試飲即売会を行う。

徳川家ゆかりの地と地酒で乾杯ツアー{令和5年2月 16 日(木)}

- ・甲賀の寺や施設を巡る乾杯ツアー。
- ・昼食時に地酒を提供。

(株)エスサーフ

県産酒の頒布会企画(12月~3月)

- ・720mlの2本セット組み合わせ

- ・「純米吟醸コース」「蔵元お勧めコース」

滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合

地酒宿泊プラン

- ・7～80 件の施設が地酒を販売するプランを出している。
- ・各地域でのイベントを実施している。(別添資料)
宿フェス観光旅博覧会 {令和5年2月7日(土)・8日(日)} 東京ビッグサイト
- ・地域でのぐい呑み提供などがあるとありがたい。

(一社)日本ソムリエ協会滋賀県支部

飲み比べセット

- ・ワインについては県内外半々の利用率だが日本酒においては県内の利用客の利用率が高い。他府県にはまだまだ地酒の魅力が伝わっていないように感じる。反対に地域の方には根強いファンの方がいる。
- ・琵琶湖ホテルでは酒造組合に所属する 32 蔵全ての地酒を取り扱って飲み比べをしている。提供する際にしっかりと提供する地酒の特徴等を伝えている。提要する際にラベルをスタッフが手書きでイラストにしてカードとして出している。カード自体は提供しているわけではない、持ち帰られる方が非常に多く、カードのために注文される方も多い。地酒を注文していただくには有効なツールである。
- ・支部役員のホテルについては滋賀の地酒以外の日本酒はスタンダードに置かないように徹底している。

公益社団法人滋賀県栄養士会

滋賀の食文化と地酒の接点をどのように伝えていくのか

- ・滋賀の食文化研究会と滋賀県栄養士会で連携して取り組んでいる。
- ・2023 年度に醤油麴を使った発酵食のレシピを冊子にしようとしており、その中に地酒についても盛り込めないかということで検討している。

公益社団法人びわこビジターズビューロー

YouTubeshort

- ・喜多酒造、岡村本家、藤居本家を追加で撮影。今年度中に、太田酒造を撮影予定。

滋賀県中小企業団体中央会

滋賀の名品ショッピングサイト

- ・サイト内にて地酒の販売。

幡委員(酔醸会事務局)

コラム掲載

- ・毎日新聞にて月 1～2 回程度日本酒に関するコラムを掲載中。

浜大津こだわり朝市(16 年継続して実施)

- ・毎月 3～4 蔵元の地酒を試飲販売。

滋賀大学教育学部

オリジナルブランド「琶ぐくみ」

- ・2年目の取組で年間通じての講義の一環。
- ・みずかがみでお酒を造っている実績がある北島酒造に依頼。
- ・絞りと仕込みの2回を見学・体験。
- ・1回生の講義となるので試飲が不可能。
- ・銘柄名・販売チラシについては学生から応募。

地域版バランスガイド

- ・農林水産省の HP で閲覧可能。

宮本委員(公募委員)

地域振興

- ・職場で地域を盛り上げていく取組をしている地域振興グループに所属しており、本協議会やセミナーについて PR。

松浦委員(公募委員)

コラム掲載

- ・産経新聞にて連載。

オンライン講座

- ・オンラインだけではなくリアル開催も戻ってきている状況。

滋賀県

近江の地場産業および近江の地場産品の振興功労者表彰式

- ・知事表彰に滋賀県酒造組合が団体として被表彰者に認定。

特に各委員の報告に対し質問等は無し。

喜多会長

報告いただいたことや提案いただいたことに対してそれぞれの団体と協議会の中で取り上げていき、協力していきたい。

議題(2) 協議会の取組について【資料 2-1、2-2】

事務局より現段階の案について説明。

【近江の地酒もてなし推進店】<意見交換>

幡委員(酔醸会事務局)

- ・登録店の対象は県内のみといった考えはあるのか？

事務局

- ・県内のお店に限ることは考えていない。ここ滋賀をはじめとする県外の地酒を取り扱っていただいている応援団はたくさんいると思うので、幅広くPRに努めていただけるお店に登録していただきたい。

喜多会長

- ・ミシガンで事業を展開していくが、同様に推進店にも登録できるのか。

事務局

- ・海外の店舗においても同様と考える。なお、ミシガン州において1~2月にかけて滋賀県酒造組合が中心に売り込みを行った結果、アプローチした10店舗中、7店舗から取扱の了承をいただいたと聞いている。

喜多会長

- ・ここ滋賀 in ミシガンができればすごいこと。お酒だけではなく滋賀の食材や物も取り扱っていくことになれば大きな交流につながる。反対に滋賀県にはここミシガン in 滋賀を作り交流していくことが本来の姉妹都市の在り方ではないかと考えている。

日爪委員(滋賀県中小企業団体中央会)

- ・取組自体はとても良いと思う。
- ・制度の中身について、どのような形で内容をPRしていくのか。「推進店」の名前だけなのか各参画店が取り組む独自の活動についてもPRしていくのか。

事務局

- ・各参画店の取組内容や想いについてもフォローしていきたい。広報できる様々なチャンネルを駆使していくべきだと思うが、行政の発信だけでは限界があり、口コミといったものに訴求力があると思うので、そういうところからも訴えかけられるようにして考えていきたい。

日爪委員(滋賀県中小企業団体中央会)

- ・最初から完全なものを作ることは難しいので実施しながら考える形でいいと思う。次元の高いところに目標を置きながら取り組んでいかなければならない。

前川委員(滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合)

- ・県下で統一したお猪口のようなものをいただけると地酒の販売促進として利用しやすく、売りやすい。そういった取組を行っていかないとなかなか普及していかないのではないかと。
- ・滋賀県調理師会では甲賀市と共催で10月に食の祭典を実施する。その時に地酒についても絡めていく。

小澤委員((株)エスサーフ)

- ・こちらから推進店登録を呼びかける際に何かツールといったものがあれば広めていく時には大きな武器になると思う。

松浦委員(公募委員)

- ・岐阜のある市では、似たような取り組みを行っていた。冊子と枡がセットで売られており、買った枡で様々なお酒が飲めるような仕組みとなっていて、半日だけの滞在だけでも非常に巡りやすかった。冊子には地酒を提供している飲食店等が記載されている。
- ・滋賀県は頑張れば一周を巡れるところであり、コンパクトに蔵元が密集しているので冊子やアプリというツールがあれば誘導しやすいのではないかと思う。

【近江の地酒カード】<意見交換>

幡委員(酔醸会事務局)

- ・カードについては色々と連携が出来るのではないかと。推進店に登録いただいている事業者で対象となる地酒を買われた方にカードをお渡しするといったことや YouTube short の動画を QR コードにして飲食店ですぐに見られるようにすると動きが活発になると思う。すごく期待している。

澤谷委員(公益社団法人滋賀県栄養士会)

- ・今年の10月1日は日曜日になる。昨年同様「滋賀地酒1万人乾杯プロジェクト」がリアル開催をされるようであれば、食事の会場だけではなく、学生にブースを出展していただき PR をしていただくといった協力が、我々としても何かできればと思う。
- ・栄養士会では食と健康展というものを毎年実施しているが、大きな展示ブースではなくとも PR がそこでできれば1つの連携になるのではないかと。

喜多会長

- ・酒造組合としても4月以降事業をするために中身を精査しているところ。組合としても今後単に地酒を売るだけではいけないと感じている。例えば、地酒とどのような食材をコラボさせ、ソムリエの方がどのように説明されるのか、実際の現場の方

がどう考えられるのかということリンクさせていかないといけない。いくら良い酒を造ってもリンクさせていかないと売れない。

・酒造組合や協議会から何かと協力依頼があるかと思うがその際はよろしくお願ひしたい。

<閉会>

事務局

山添局長挨拶

- ・各団体それぞれが工夫を凝らして地酒振興に尽力いただいていることを改めて認識したところ。皆さまの取組が滋賀県のファンを増やしていく。
- ・協議会でいただいた情報をつなぎながら登録店制度やカードを用いて盛り上げていく。

以上